

クラスター対策 介護施設が模索

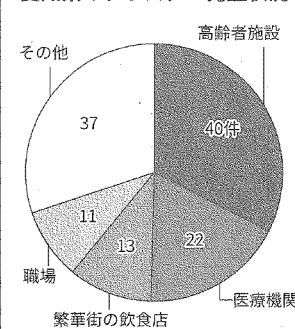
愛知で40件
介助での接触多く

高齢者施設での新型コロナウィルスのクラスター(感染者集団)発生を防ごうと、現場の模索が続いている。病床が逼迫すれば感染した入所者が入院できず、施設内での療養を余儀なくされるケースもある。感染対策とケアの両立を目指す名古屋市内の施設を取材した。(一面参照)

「元気にしてたい」。名古屋市の有料老人ホーム「グランド浄心」に入所する80代女性がモニター越しに、面会に訪れた家族に話しかけた。家族は「みんな元気だよ。最近は何しているの」と応じる。体調や近況を報告し合って、15分ほどの面

感染者は個室で■専任の看護師配置

愛知県のクラスター発生状況



会時間を終えた。

施設では昨年2月に対面の面会を禁止し、その後、オンラインに切り替えた。同施設の入所者は約50人で平均年齢は89歳。糖尿病などの持病を抱える人もおり、新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすいため、警戒を怠らない。介護は入所者との接触が多く、現場は緊張が続く毎日だ。入浴や排泄の介助を終えるたびに手袋とマスクを交換し、換気と消毒も徹底する。

同施設では感染者はまだ出ていないが、緊急時のシミュレーションを進める。参考にした、クラスターが発生した別の施設では、医療機関の病床逼迫で感染者がすぐに入院できず、施設での数日間の療養を余儀なくされた。その結果、内部で感染が広がったという。そこでグランド浄心では、専門家の助言もあり、施設内で感染者をケアすることを想定したマニュアルを作成した。感染者は個室にとどまってもいい、共有部分の出入りを控えてもらうほ

か、たん吸引などの医療行為のための看護師も感染者専用で配置するなど対策を定めた。ただ認知症の入所者もあり、感染しても施設内を徘徊(はいかい)してしまう懸念がある。職員の介護士、西脇千恵子さんは「実際に感染者が出てから初めて分かることも多いだろう」と話す。厚生労働省によると、3月1日時点で全国で発生したクラスター5307件のうち、高齢者施設が1089件と約2割を占め、飲食店(972件)を上回り最多だった。愛知県も5日までに高齢者施設のクラスターが40件発生し、全体の3割を占めた。

こうした背景には、高齢の入所者には基礎疾患があっても発熱やせきの症状が出やすい人がおり、コロナだと早期に見極めにくい上、介助の際に職員との接触が多いなど高齢者施設特有の事情があるとみられる。また名古屋市の医療機関の関係者は「認知症の人はケアが大変なので、病院側にどうしても入院を敬遠されがち。そのため施設内で療養してもらうケースが出てしまっ」と打ち明ける。

愛知県立大の清水宣明教授(感染制御学)は「高齢者施設など複数の人が出入りする場所では、どんなに対策を徹底しても感染リスクをゼロにはできない。緊急時には入所者と職員の接触を最小限にするといった、集団感染を起こさない対策を事前に練るべきだ」と指摘。「クラスターが発生した施設のノウハウを多くの同業者が共有することも大事だ」と話す。

オンラインで家族と面会する有料老人ホームの入居女性(2月、名古屋市)

